

[陸上]

全日本大学駅伝に4年ぶり出場決める

学生三大駅伝の一つ、全日本大学駅伝対校選手権（11月6日、名古屋市熱田神宮～三重県伊勢神宮＝8区間106・8キロ）に緑の「S」、ユニホームが復活する。

6月11日、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場で行われた選考会で、専大は4時間3分14秒6の4位で、4年ぶりの本選出場を決めた。

1万メートルを各校2人ずつ4組8人の合計タイムで争う選考会。東海大、神大、法大、早大、大東大などの強豪校を含む20校が、7つの出場枠をかけて激しい戦いを繰り広げた。専大はエースの座間マボロベネディック、長谷川淳が本来の力を出しきれなかったが、1組目で8位になった森脇啓太ら下級生の頑張りやチームの総合力で「キップ」を勝ち取った。



選考会でトップを走る座間(撮影・橋本)

トップ通過が有力視されていた東海大の1組目での棄権、早大の予選落ちなど、波乱の選考会を振り返って、辰巳陽亮主将は「接戦の中で競り勝てたのが大きい」と素直に喜び、「目標は箱根駅伝出場です」と力強く語ってくれた。本番は、箱根駅伝予選会直後の開催で、スケジュール調整が難しいが、上位を目指してほしい。

(宮山 友希・文2)

座間は14位

日本学生対校選手権兼ユニバーシアード日本代表選手最終選考競技会 7月3日、国立競技場で行われ、座間が男子5000メートルで決勝に進出し、14分3秒36(自己新)で14位となったが、ユニバ代表には届かなかった。

[水泳]

日本選手権ベスト8

リーグ戦、インカレへのバネに

日本選手権水泳競技大会(水球) 7月1日から3日まで、相模原市立総合水泳場で行われ、ベスト8入りを果たした。

6月の予選を4連勝で突破して挑んだ今大会は、初戦で今春の東日本リーグを制した強豪・早大と対戦。序盤は専大がややゲームをリードしていたが、第3ピリオドで早大の追い上げに合い、逆転を許す。第4ピリオドで猛反撃するも、8―11と惜しくも敗れた。

田村正明コーチは試合を振り返ってこう語る。「良く戦ったが、第3ピリオドの失点さえなければ勝てた試合だっただけに悔しい」。

この後のリーグ戦、インカレでは、今回の一戦をバネに大きく成長した姿が見られるだろう。

(柴田 麻実・文2)

[アーチェリー]

全日本学生王座決定戦は9位に

全国各地から出場権を獲得した16大学によって、6月29、30の両日、駒沢第1球場で行われ、専大は健闘したが9位に終わった。

初日、対戦校を決める予選ラウンドでは12位と振るわず、5位の東洋大との対戦となった。2日目、決勝ラウンド(トーナメント方式)1回戦では、東洋大と白熱した試合を展開。214—217とわずか3点差で惜敗した。しかし、1回戦敗退チーム中、最高得点で9位が確定した。

山本が東西対抗に出場

全日本学生東西対抗戦 全日本学生王座決定戦と並行して開催された全日本学生東西対抗戦に、専大からは山本泰志(経営3・大宮開成高)が出場し、東軍の勝利に貢献した。

[バレーボール]

東日本大学選手権 1部復帰へ“自信”増す

6月23日から26日まで、東京体育館ほかで行われ、専大はベスト8で大会を終えた。

初戦をストレート勝ちすると、2、3回戦も危なげなく突破、準々決勝で今春の関東大学リーグ覇者・筑波大と対戦。両校の意地がぶつかり合う接戦となり、セットカウント1—2で迎えた第4セット。早川洋平(経営3・玉野光南高)がキレのあるスパイクを叩き込み、中原貴典主将(経営4・佐賀商高)、等々力広人(経済4・岡谷工高)らの丁寧なレシーブで粘り強さを発揮したが、あと一歩及ばず26—28、セットカウント1—3で敗れた。

今大会は全試合を通して、全員のボールに対する集中力が途切れなかった。春季リーグで2部に降格したが、1部復帰を目指す上で、自信につながる試合内容だった。

また、同部の渡辺啓太(ネット情報4・浅野高)が全日本女子チームのアナリストとして、昨年に続き『バレーボールワールドグランプリ大会』に帯同。好調・日本を支えている。



ブロックに跳ぶ松永和城(「3」)と長谷川弘樹(「11」) (撮影・橋本)

(橋本 麻未・経済2)

[バスケットボール]

関東大学新人戦3位 浅野が優秀選手賞

秋季リーグ戦へ手応え

関東大学新人戦 6月13日から19日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、専大は3位となり、優秀選手賞に浅野崇史(商2・横浜商科大高)が選ばれた。

今大会は苦戦の連続だった。中原雄監督が「気合いが入るのが遅かった」と振り返ったように、序盤に相手にリードされ追いかける展開が多かった。3回戦の筑波大戦は最大21点のリードを許すが後半、粘り強さを発揮し、逆転劇を見せた。

新関光一総括も「筑波大との試合からようやく戦えるようになった」と語った。続く青学大には接戦の末に敗れはしたが、3位決定戦ではインサイドを中心に攻め立て、85―70で東海大を破った。全体を通して気持ちの弱さが目立ったものの下馬評を覆し専大の実力を示す大会となった。

秋のリーグ戦に向けアピールした選手も多く、チーム内の競争も激しくなる。夏を越えて大きな成長に期待したい。



飯田貴大(「8」)のシュート(撮影・松本)

(松本 旬平・経済3)

伊藤が出場

日本男子学生選抜大会 7月1から3日まで徳島県鳴門総合運動公園体育館で行われ、専大の伊藤孝志(商4・福岡大大濠高)が出場し、関東学生選抜の優勝に貢献した。

地域との交流深める

[HOOP IMPACT 2005]

7月10日、生田総合体育館で行われた(スポーツインデックス主催、専大バスケットボール部後援)。垣根を越えた相互理解、交流を目指し、車椅子バスケット体験や現役選手によるエキシビジョンマッチなどを開催。大会はオール専大が連覇を果たした。

(荻野 敦子・文1)



[キッズリーグ]



6月26日、専大北グラウンドで行われた(川崎フロンターレ主催、専大サッカー部協力)。部員たちは審判など、運営面をサポート。真夏を思わせる猛暑の中、川崎地区周辺の46の少年サッカーチームが参加し、子供や保護者の歓声がグラウンドを飛び交った。

(久我 智也・文3)

《記録コーナー》

◇柔道部

▽東京都学生優勝大会(5月29日、日本武道館)ベスト16※東京学芸大に勝利し、1部に復帰した。

◇卓球部

▽関東学生選手権(6月29日～7月1日、)男子シングルス・高宮啓(商4・湘南工科大付属高)=8位 女子シングルス・杉田早苗(商2・四天王寺高)=10位